

被災者に合った支援を

東日本大震災・原発事故12年

3万人余なお避難

東日本大震災の発生から11日で12年となります。復興庁によると、全国での避難者は3万8844人（2月1日現在）。東京電力福島第一原発事故の影響で、今も一部で避難指示が出ている福島県では昨年、帰還困難区域で初の居住再開につながる指示解除がありました。帰還を諦める人も多い。復興の程度には地域差もあり、被災者の実情に合った機動的な支援が求められています。警察庁によると、死者は1万5900人、行方不明者は2万538人。ともに昨年3月から増減はなく、この1年間で新たに遺体が見つかったり、身元が判明したりしたケースはありませんでした。いずれも変わらないのは初といえます。復興庁によると、疾病悪化などが原因の「災害関連死」は昨年3月末現在で3789人に上りました。帰還困難区域を抱える福島県は、県内外で依然2万7399人が避難生活を送ります。

↓志位愛國議員の訪視の場面・関連の場面

事故地域のつながり奪う

福島・双葉郡ルポ

避難指示が解除になり戻った人も、放射線量が低い「帰還困難区域」でいまだ避難を余儀なくされる人も、事故で地域のつながりや人生を奪われた苦悩が続いています。帰還困難区域が残る福島県双葉郡を訪れました。（小林圭子）

■双葉町

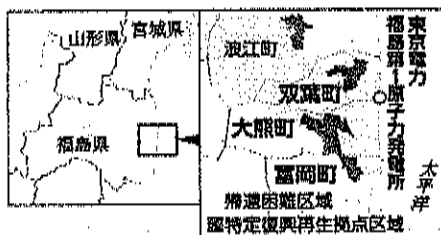
福島第一原発が立地する双葉町。事故当時、7000人以上の全住民が避難を余儀なくされた町では昨

日双葉町（左奥）や田代町（右奥）が並ぶ。福島県双葉郡

年8月、一部地域（特定復興再生拠点区域）の避難指示が11年ぶりに解除されました。2月末時点で60人が住んでいます。

新しいJR双葉駅の隣に、旧駅舎を改装し住居らが集まるフリースペースがありました。常駐する職員と話していた細澤靖さん（78）は、生活を再開するための準備が始まった昨年1月、駅から1キロほど離れた自宅に戻りました。うちがあったから帰ってきたけど、「つまんなかったな」と寂しげな表情を浮かべます。近所に戻ってくる人は少ないため、2月に1度は旧駅舎に来るといいます。

町内で鉄工所を経営していましたが、工場は解体。家の畑で野菜を作っていたが、ハンドシリンやタヌキに食われちゃう」と面を落



とします。

町街地は空き家ばかりで、線路をまたぎ園道につながる高架道路の工事が進められていました。「あれを作るより、働いてるや学校をいっけて、子どもを来てほしい」とするものが先じゃないか。戻ってくるのは年取った人ばかりだ」と細澤さんは話します。

(3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)

明かりとももらぬ家々

住民の56%「戻らない」

一面のついで

復興計画に合わせた住民の移住について、町民の意見が聞かれています。



復興づくりの復興公営住宅（左）と診療所（右）＝福島県双葉郡

復興計画に合わせた住民の移住について、町民の意見が聞かれています。町内には学校がなくなり、現存の建物が住居として使われていません。88戸が計画されています。町内には学校がなくなり、現存の建物が住居として使われていません。88戸が計画されています。

スーパーもコンビニも銀行もない



みなで集まる水飲み場、住民たちが集まる場所

復興計画に合わせた住民の移住について、町民の意見が聞かれています。町内には学校がなくなり、現存の建物が住居として使われていません。88戸が計画されています。

町にはスーパーやコンビニ、金融機関もありません。買い物やお金の引き出しは、隣の町へ行く必要があります。住民は「スーパーやコンビニがないので、生活が不便です」と話しています。

町にはスーパーやコンビニ、金融機関もありません。買い物やお金の引き出しは、隣の町へ行く必要があります。住民は「スーパーやコンビニがないので、生活が不便です」と話しています。

国よ東電よ 故郷失う苦しみ知って

避難指示が解除された地域では、住民が戻りたいという声が上がっています。しかし、東電や国からの賠償金や支援が十分でないことが、住民の苦しみを引き起こしています。



壊れた土地の除染作業を待つ、深谷敬子さん＝福島県双葉郡

東電や国からの賠償金や支援が十分でないことが、住民の苦しみを引き起こしています。住民は「故郷を失った苦しみを知ってほしい」と訴えています。

避難指示が解除された地域では、住民が戻りたいという声が上がっています。しかし、東電や国からの賠償金や支援が十分でないことが、住民の苦しみを引き起こしています。

住民は「故郷を失った苦しみを知ってほしい」と訴えています。東電や国は、住民の苦しみを知るべきです。